

## 宇宙の安全保障構想策定に向けた論点整理

### 1. 策定の趣旨

昨年12月に策定された国家安全保障戦略において、民間技術の防衛分野への活用などを含めた、宇宙の安全保障の分野の課題と政策を具体化し、宇宙基本計画等に反映させていくため政府の構想を策定する旨が明記された。これを踏まえ、宇宙安全保障構想（仮称）を令和5年夏頃の策定を目指す。

### 2. 策定に向けて留意すべき論点（案）

#### （1）本構想で示すべき事項

##### ① 3文書から導かれる宇宙政策の明確化

- 国家安全保障戦略等において記載されている宇宙領域に係る政策（※）について、宇宙基本計画への反映に向けて、取組方針をより明確化すべきではないか。
- このため、まずは2033年に我が国として宇宙でどのような姿を描くのかを明確に描き、その達成手段・アクションを具体的に示すべきではないか。
- その中で、我が国の民間の宇宙技術を防衛に活用し、またそれが更に我が国の宇宙産業の発展を促すという好循環を促すため、我が国の産業に予見可能性を与えるための取組を明示するべきではないか。

（※）国家安全保障戦略には「宇宙の安全保障に関する総合的な取組の強化」として、主に以下の3つの方向性が示されている。

- 宇宙からの安全保障
- 宇宙における安全保障
- 我が国の宇宙産業の支援・育成

② 今後期待されうる技術の提示

国家安全保障戦略等では具現化していないものの、今後、宇宙の安全保障の用途として期待される技術ニーズについて示すことで、民間企業の予見可能性を高めることに繋がるのではないか。

(2) 念頭におくべき期間

宇宙の安全保障の分野の課題と政策を具体化し、宇宙基本計画等に反映することを踏まえると、おおむね10年程度の取り組みを見据えた議論をすべきではないか。

(参考)

- ・ 国家安全保障戦略及び国家防衛戦略：おおむね10年程度の期間を念頭
- ・ 防衛力整備計画：自衛隊の体制はおおむね10年程度の期間を念頭  
経費・主要装備品の装備数量については5か年

(以 上)